

本場 NZ 切馬子

来月 スタート

札山の手高が、2003年から「ラグビー留学プログラム」をスタートさせる。11月下旬には、西岡憲広校長と佐藤幹夫ラグビー部監督が、本場ニュージーランドを訪れ、クライストチャーチ市のセントビーツカレッジを視察のうえ、提携校関係を締結。ラグビー部の1年生から希望者を募り、来年3月には2、3人が留学。同世代の選手たちと生活を共にしながら、技術向上を目指す。



連日、練習に励む札山の手フイフイーン

部員のパワーアップに心強いプログラム

札山の手高ラグビー部



札山の手高の佐藤監督は、ニュージーランド側のパンフレットを手にニコリ

セントビーツと提携校関係締結 練習場5面 13チーム 最高の練習環境

将来語学留学も
国際化教育に力を入れ、国際交流も考えています」と話した。西岡校長は「ラグビー部が全国で活躍できるようにするために、本場ニュージーランドのラグビー部と提携校関係を締結し、来年3月に2、3人が留学。同世代の選手たちと生活を共にしながら、技術向上を目指す。」

のも決め手となった。「語学留学、文化交流など、国際化教育に力を入れ、国際交流も考えています」と話した。西岡校長は「ラグビー部が全国で活躍できるようにするために、本場ニュージーランドのラグビー部と提携校関係を締結し、来年3月に2、3人が留学。同世代の選手たちと生活を共にしながら、技術向上を目指す。」

◆札山の手高ラグビー部 2度目の決勝進出で8部男女共学になった1988年(昭和63年)に、部員3人でスタート。佐藤幹夫監督自らが、全校集会や校門前で「スカウト」して、部員を集める。00年の南大会では、創部以来

◆セントビーツカレッジ ニュージーランド・クライストチャーチ市の北に位置する、創立91年のカトリック系男子校。在校生徒は13〜18歳までの700人。ラグビーチームは13チームあり、コーチ陣には、ニュージーランド高校代表のヘッドコーチを務めたジェリイ・デービッドソン氏も名前を連ねる。毎年イギリス、オーストラリアなどのチームを受け入れて交流試合を行っており、日本の高校では、大阪・啓光学園、福岡・東福岡が、同校で合宿を行っている。

◆現在希望者6人 現在は、6人の希望者の中から最終選考を行っている。佐藤監督は「本人のレベルアップはもちろん、戻ってきて仲間に戻元してくれることで、チームも活性化すると願っています」。留学できない選手に広がる効果も視野に入れている。

◆NZ合宿も計画 ○：留学プログラムとは別に、ラグビー部全員でのニュージーランド合宿も計画されている。来年3月に約2週間、オーストラランドとクライスタチャーチで、交流試合を行う予定。佐藤監督は「観光だけでなく帰ってくるつもりです」。ラグビーの本場で、レベルの高い選手たちと交流することで高い意識を持たせて、シン